

## 府教委「入試改善方針（案）」に対する見解

府教委は8月22日に教育委員会会議を開き、2016年(平成28年)度以降の公立高校の「入学者選抜制度の改善方針(案)」(以下「入試改善案」)を公表しました。今後各方面の意見を聞いた上で、11月に最終決定を行うとしています。

### 入試の原則一本化について

現在の前期・後期の2回入試を原則一本化し、「一般選抜」として「3月上旬～中旬」に実施するとしています。同時に「技能や意欲を重視する」一部の学科でのみ、早い日程で「特別選抜」を実施するとしています。

府高教は当初から「2回入試は多くの中学生に『不合格』の烙印を押し、高校在校生の学年末時期の指導を困難にし、入試業務の増大により教職員の負担をさらに過重にする、誰にとってもメリットのない制度」と批判し、父母・府民とともに入試の一本化を求めてきました。「一般選抜」への一本化は、遅きに失したとはいえ、評価できるものです。

しかし「一般選抜」の学力検査が3月上旬に実施されれば、ここ2年間の後期入試と同様に、在校生の学年末の教育活動の時期と重なり、学校の本来の業務である在校生の教育活動に支障を生じることになります。「一般選抜」の日程設定に当たっては、在校生の教育活動と重複させない必要があります。

### 「アドミッションポリシーで合否判定」は不適切

「入試改善案」は、基本理念の一つに「高校が、自校のアドミッションポリシー(求める生徒像)に適う生徒を求めることができること」を掲げています。ボーダーゾーン(募集人員の20%)内の判定を「アドミッションポリシーに極めて合致する者を総合点の順位に関わらず優先的に合格とできる」としています。このとき①すべての受験生に出願時に提出させる「自己申告書」、②調査書に記載される詳細な「活動/行動の記録」を判定資料とするとしています。②については「校内での日常生活を含む中学校での教育活動全般について具体的事実を示して記載」としています。

アドミッションポリシーで合否判定を行うことには、以下に示す通り非常に大きい問題があり、府高教は各府立高校が「アドミッションポリシー」を示すことや、それに基づく入学者選抜には反対します。

ア 高校で学びたいと希望する子どもたちに学ぶ場を保障するために公立高校は存在しています。学校の側から「求める生徒像」を示して選抜を行うことは公立高校の理念に反します。「意欲」や考え方、将来の希望などはその生徒の内心であり、これによって合否判定を行うことは適切ではありません。

イ 「自己申告書」と「活動/行動の記録」の内容を客観的に評価することは困難です。また「自己申告書」をあらかじめ提出させるのであれば、その内容に保護者や教師、塾等の指導・意見が入ることは避けられません。入試の客観性・公平性を著しく損なうものです。

ウ 「自己申告書」と「活動/行動の記録」という新たな判定材料が加わることにより、現在でも過重な教職員の入試業務がさらに増大します。中学校・高校とも教職員の新たな負担となることは明らかです。

### エンパワメントスクールについて

エンパワメントスクールについて府教委は、「再編整備計画(案)(2013年8月30日)」で、基本的な考え方を「義務教育段階からの学び直しのカリキュラムを徹底」としています。今回の「入試改善案」によると、エンパワメントスクールの入試は「特別選抜(前期)」とされ、その際、学力検査の成績が一定の基準に達した受験生の中から、「自己申告書」・「活動/行動の記録」・「面接」の三つの資料のみで「意欲」を評価し、「募集人員の50%を上限として合格」とするとしています。

公立高校への進学希望者が年々増加する中で「特別選抜(前期)」で募集すれば、「学び直し」に関係なく志願者が集中する可能性があります。「学び直し」という理念を大切にするのならば、全日制高校に希望者全員が入学できる受入枠を用意した上で、別枠で「学び直し」を希望する生徒全員を受け入れる学校とすべきです。

さらに「意欲」を客観的に計測することなど不可能であり、このような選抜方法では恣意的な判断となることが避けられず、志願者から見ると不公平でわかりにくい入試になることは明らかです。

### 中学校教育に重大な影響

上記のアドミッションポリシーで判定を行う問題に加えて、府教委は2016年度から中学調査書評定の「絶対評価」化を決めました。「入試改善案」によると、経過措置を設けたうえで、中学1年・2年の評定も選抜に用いるとしています。その評価基準をそろえるために1・2年生を対象に実施される「統一的な学力調査(チャレンジテスト)」を利用するとしています。これらは、競争と選別を激化させ、中学校教育全体を高校受験のための教育に歪めることは明らかです。

府高教は、競争と選別の教育ではなく、学びたい誰もが学べる高校教育と、それにふさわしい公立高校入試への改善を強く求めます。